

阪神・淡路大震災30年 自然災害伝承フォーラム

自然災害が多発する日本において、社会活動を継続していく上で
防災・減災は欠かすことのできないものとなっています。
未曾有の被害をもたらした阪神・淡路大震災から30年を迎える今、
北淡震災記念公園で全国各地の災害伝承施設が集い
これまでの活動や、これからの活動について話し合います。

2025年1月18日(土) 12:30開場
(13:00開始)

北淡震災記念公園 セミナーハウス (兵庫県淡路市小倉177)

参加無料

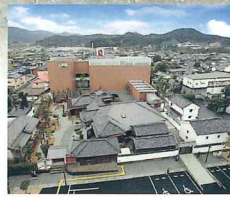
事前申し込みは
不要です



人と防災未来センター



雲仙岳災害記念館



稲むらの火の館



中越メモリアル回廊 さおくらみらい



熊本地震震災ミュージアム KIKOU



気仙沼市東日本大震災遺構伝承館

プログラム

12:30 開 場

13:00 開会あいさつ

13:15 鎮魂歌メドレー (藤岡まゆみ)

13:35 防災学習発表／兵庫県立淡路高等学校

13:50 能登半島地震事例報告／珠洲市

14:25 講 演／神戸大学 名誉教授 室崎 益輝氏

15:10 パネルディスカッション

コーディネーター／北淡震災記念公園 総支配人

コメンテーター／神戸大学 名誉教授

パネラー／人と防災未来センター 運営課長

雲仙岳災害記念館 館長

稲むらの火の館 館長

熊本地震震災ミュージアム KIKOU

中越メモリアル回廊 マネージャー

気仙沼市東日本大震災遺構伝承館 館長

米山 正幸

室崎 益輝

森川 徹

杉本 伸一

崎山 光一

久保 亮之

赤塚 雅之

及川 淳之助



阪神・淡路大震災
直後のようす



16:40 閉 会

登壇者紹介



室崎 益輝

1944年兵庫県生まれ。京都大学建築学科卒業。工学博士。神戸大学都市安全研究センター教授、独立行政法人消防研究所理事長、関西学院大学災害復興制度研究所長、兵庫県立大学減災復興政策研究科長などを経て現職。地区防災計画学会会長、日本防災士会理事長、ひょうごボランティアプラザ所長、海外災害援助市民センター代表などを歴任。防災功労者内閣総理大臣表彰、神戸新聞平和賞、NHK放送文化賞などを受賞。専門は、建築防火、都市防災、減災復興。現場主義と総合主義の目線で災害に向き合うことをモットーにしている。



米山 正幸

北淡震災記念公園総支配人。淡路市（旧北淡町）富島で被災。消防団員として救助活動などを行う。震災の語りべとして公園内外で1800回を超える講演を行ってきた。

【北淡震災記念公園 野島断層保存館】

1998年開園。阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）を引き起こした野島断層を保存。震災を伝えるとともに、防災、減災、命の大切さ、人と人とのつながりの大切さを伝えてきた。1999年から震災の語りべ活動も行っている。



森川 徹

1993年兵庫県庁入庁。阪神・淡路大震災発生時は、竜野土木事務所勤務。その後、防災計画課、人と防災未来センター、災害対策課などに主として防災に関する部署に勤務。2022年から現職。



【人と防災未来センター】

2002年4月に開設。阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承し、防災・減災の実現のために必要な情報を発信する施設。館内では、展示資料や当時の映像、震災体験者の話などをもとに、一人ひとりが災害に対する正しい知識を身につけることができます。



杉本 伸一

長崎県島原市生まれ。島原市職員として雲仙普賢岳噴火災害を体験。災害遺構の保存活動に携わるとともに、内閣府火山防災エキスパートとして、火山防災の実践に基づき防災思想の普及に努める。東日本大震災の復興支援として、2014年から6年間若手県宮古市に居住し、三陸ジオパークの推進に携わる。

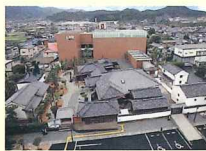
【日本初の体験型の火山ミュージアム・雲仙岳災害記念館】

火砕流や土石流などで地域に甚大な被害を与えた雲仙岳噴火災害。その教訓を正確に後世へ伝えるため、土石流の土砂で海を埋めてできた新しい土地に建設したのが日本初の体験型火山ミュージアム「がまだすドーム（雲仙岳災害記念館）」です。



崎山 光一

1949年生まれ。1972年広川町教育委員会勤務。2004年広川町中央公民館活動として「広川町語り部サークル」結成・代表に就任。2012年内閣府主催「津波防災の日講演会」、2013年和歌山県主催「津波防災の日講演会」で講演。2014年稲むらの火の館館長に就任。



【稲むらの火の館】

1854年の安政南海地震津波の教訓を伝承し、防災・減災の実現のために必要な情報を発信する施設。館内では、安政南海地震津波の資料や、昭和南海地震体験者の話などをもとに、一人ひとりが災害に対する知識を身につけることができます。



赤塚 雅之

新潟県新潟市出身。中越大地震の震源地である旧川口町に在住。2011年の中越メモリアル回廊の開設より保存伝承活動、運営に従事。「川口さずな館」「おぢや震災ミュージアムそなえ館」「さくおくみらい」などの各メモリアル施設の担当を歴任。

【中越メモリアル回廊】

新潟県中越大地震から20年。中越メモリアル回廊では震災の記憶と記録を伝えながら防災意識向上に向けた提案を通じて地域の防災を担う市民に、次世代の地域を担う子どもたちへ、そして未来へ、経験と教訓を発信し続けています。



及川 淳之助

1954年生まれ。震災当時、南三陸消防署の当直指令。消防庁舎2階で津波にのみこまれたが奇跡的に生還。2024年気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館の館長に就任。自身の経験を踏まえ震災の教訓を伝える役割を担っている。



【気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館】

平成31年3月10日に開設。被災した気仙沼洋高等学校旧校舎を被災当時の「ありのままの姿」で震災遺構として保存。隣接地に震災伝承館を整備し、映像シアターや展示室、研修室、交流ホールを備え併せて公開しています。その他、防災・減災教育学習、語り部ガイド、防災セミナー、ふりかえりワークショップを開催しています。



久保 堯之

1991年鹿児島県生まれ、東京大学工学部卒。東日本大震災後東北一次産業復興取り組み後、2016年熊本地震発生直後より熊本入り、地域再建活動開始。みなみあそ観光局の体制整備を行い、防災教育プログラム造成・受け入れ、語り部ガイド育成、震災遺構管理・活用にも取り組む。2023年より熊本地震震災ミュージアムKIOKU統括ディレクターを務める。

【熊本地震震災ミュージアム KIOKU】

平成28年熊本地震の記憶や経験、教訓を確実に後世に伝承し、大規模地震災害に備えるため、熊本県内に点在する震災遺構等を活用した体験展示施設として2023年7月に開館。「自然とともに生きるためには」をコンセプトに、展示やシアター、地表地震断層や震災遺構、各種プログラムを通して、熊本地震被災の様子、その発生メカニズム、防災について学び考えていただく施設です。



藤岡 まゆみ

淡路市出身。立命館大学在学中に「AN MUSIC SCHOOL」京都校Vocal科に入学し3年間学ぶ。様々なジャズフェスティバル、コンテストに参加。2002年より阪神・淡路大震災犠牲者追悼のため、「フェニックス合唱団」の指導・指揮をする。

石川県 珠州市

令和6年1月1日夕方に発生した石川県珠州市を震源とする能登半島地震（M7.6、最大震度7）は、新潟、富山、石川の3県で、死者462名（災害関連死含む）、行方不明者3名の甚大な被害をもたらす。珠州市においても震度6強を記録し、災害関連死と認定された49名を含めて146名が犠牲となった。

兵庫県立淡路高等学校

兵庫県立淡路高等学校は、阪神・淡路大震災の震源地に一番近い県立高校です。私たちは、震災の記憶を伝えるために「語り部活動」に取り組むほか、自分や大切な人の命を守り、地域の防災リーダーとなるよう学んでいます。